

茨城工場を新たに竣工

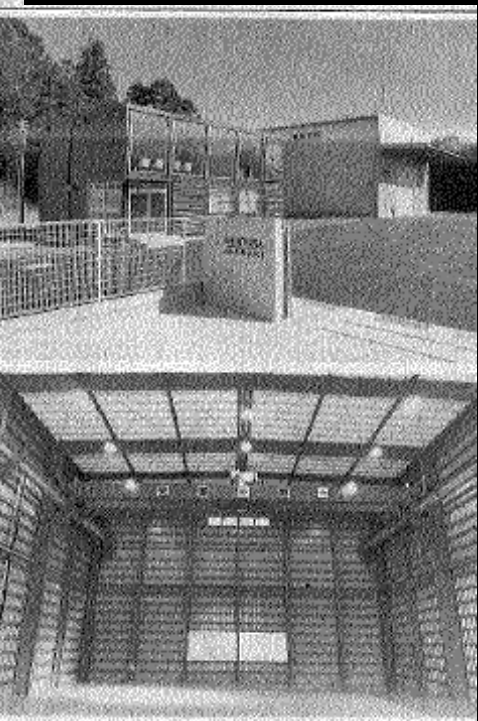
新虎興産 油入り変電機も受人可

変電機器の撤去やリサイクルを中心に事業展開する新虎興産（大阪市、木村高士社長、06・6536・907）は、新たに茨城工場の拠点として東エリアの拠点として茨城工場を竣工した。絶縁油を含む機器の受け入れも可能な、変電機器のリサイクルに特化した施設となっており、関東一円はもちろ

んと、東北・東海エリアも含めた顧客ニーズに対応。3月中旬から稼働を開始し、今秋にも産廃処理許可を取得して本格稼働する計画だ。

茨城工場は、同県稲

敷市に立地。敷地面積約8000平方メートル、建物面積約300平方メートル（工場棟約300平方メートル事務棟約90平方メートル）で、大型機器に対応する天井クレーン、破碎機、廃油の速心分離機を備える。処理対象物は変電機器で、絶縁油入りのものもそのまま受け入れて、抜油・リサイクル処理できるのが大きな特徴だ。作業スペース前には大型車両も乗り入れ可能な車両アプローチを備え、天井クレーンでそのまま機器の積み下ろしが可能。抜油後の機器撤去では、部材の



部に流出させずに回収、油水分離して適切に処理するなど、周辺環境にも配慮した施設となっている。

同社は、本社のある大阪府を中心とした西日本で、ウォーターシエット工法による変電機器の無火気撤去・リ

新工場を立ち上げた」と茨城工場の吉田昌平工場長は話す。

サイクルを展開してきた。一方の東日本では、2021年に東京支店を設立して営業活動を行い、処理依頼には大阪工場に対応する中で「油入り変電機器の処理ニーズを捉える」とも、大阪までの物流コストを削減するべく「すでに引き合いもあり、電力、施工業者等をターゲットに営業を強化していく考えだ。同工場長は「すでに決まっている案件もあり、市場からの期待を感じている。まずは有価物の処理からしっかりと進めていきたい」と抱負を語った。